

各地からのたより

各地の取り組みを
ご紹介します



■技術普及課
■仙台森林管理署
■由利森林管理署
■三八上北森林管理署
■岩手南部森林管理署遠野支署

「森林(もり)の市」を開催

技術普及課

6月13日(土)、秋田駅近くのアゴラ広場及び仲小路を会場として、「森林(もり)の市」を開催しました。

心配された天気は、朝から曇り空で一時的に降雨もありましたが、最後まで無事実施することができました。

この「森林の市」は、1985年の国際森林年を記念して始まり、今年で31年目となります。

開催にあたり飛山局長より、「このイベントは、幅広い層の皆様には様々な森林のはたらきや林業・木材産業等に対する理解を深めていただくことを目的としています。山の写真展やクラフト製作などの体験コーナーも準備していますので、森林の恵みや森林の大切さを感じていただながら、各コーナーを楽しんでください。」と挨拶があり、10時から開場しました。



「森林の市」会場

今年度も秋田県、秋田市、(公社)秋田県緑化推進委員会、秋田県森林組合連合会、秋田県木材産業協同組合連合会、(一社)日本樹木医会秋田県支部、国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センター秋田水源林整備事務所から後援をいただき、日本森林林業振興会秋田支部、森林組合、仁別森林博物館ボランティア案内人会など13団体の協力により、「山

菜」や「木工品」等の販売のほか、「山の写真展」、「丸太切り体験」、「木工・クラフトの製作」、「航空写真の実体視や各種パネル展示」などのコーナーを設けました。

例年人気商品となっている「山菜」については、開催時期が6月中旬となったこと、また、今年は気温の高い日が続いた影響などで、当日の出品は少なめでしたが、来場者は旬の味を楽しもうと「山の恵み」を買い求められていました。

「山の写真展」では、津軽白神、藤里、朝日庄内の各森林生態系保全センターから「白神山」や「朝日山地」の写真等が展示され、山の風景、樹木、森に棲む生物等の写真に来場者も見入っていました。

丸太切り体験、親子木工教室やク



丸太切り体験の様子

ラフト製作などは、子供から大人まで大人気で、真剣な面持ちで製作に取り組んでいました。木工・クラフト製作は、アンケート結果でも苗木プレゼントに次ぐ高評価でした。

また、MV東北秋田緑の少年団の子供達と保護者の方々及びボランティアの秋田大学の学生による緑の募金活動が行われ、多くの方々から募金をしていただきました。この募金は、県内の緑化活動推進に有効活用されます。

当日は開場時間前から多数ご来場いただき、先着250名様に用意したプレゼントのカリンの苗木は、午前の部、午後の部とも全て配布し喜んでいただき、約3,000名の来場者で大いに賑わいました。



カリン苗木のプレゼント

JICA研修生が仙台湾沿岸の海岸防災林で視察研修を行いました

仙台湾森林管理署

6月5日（金）、JICA（国際協力機構）の研修生4名が仙台湾沿岸の海岸防災林の造成現場を訪れ、仙台湾森林管理署が行っている基盤造成や植栽の状況について説明を受けました。研修生はケニア国の森林研究所及び森林局の職員で、JICAが現地地帯で実施している「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」において、乾燥に強い品種の選抜育種やその普及を担当しています。最初に署で宮城南部の国有林や海岸林に関する説明を受け、仙台湾の現地へ移動しました。



国有林等説明の様子

海岸防災林造成現場では、津波に対して粘り強い森林とするため盛土をしていること、マツクイムシ抵抗性のクロマツが植栽されていること等の説明を受け、特に、前日まで林木育種センター東北育種場で見学していた抵抗性育種の成果が現場の事業に活かされていることに深い興味を示していました。また、震災前の写真と見比べて、現地が全く様変わりしている状況にも大変驚いており、津波の怖さを実感したようです。一行はさらに九州や沖縄で研修を続けることと、東北をはじめ日本で学んだ成果が現地で活用されることが期待されます。



現地研修の様子

高校生による体験学習

由利森林管理署



海岸林の役割等を説明

由利森林管理署は、平成14年から毎年森林環境教育の一環として、県立矢島高等学校の1年生による体験学習に取り組んでいます。この体験学習は、高校における総合学習の一環として「地域の自然にふれあい環境問題を考えよう」というテーマで、毎年春と秋に学校側の要請により実施しています。学習フィールドとなる水林海岸林（国有林）は、飛砂や風から市民の生活を守り潤いを与えてきましたが、松くい虫被害によりその姿が減少しました。

こうした中、高校生が海岸林の再生作業の一部を担うとともに、環境への関心を深めながら地域へ貢献してもらうことをねらいとして、5月20日（水）と5月26日（火）の両日、

クロマツ林の除伐（本数調整伐）を行ってもらいました。

最初に、ノコギリは手前に引くときに切れ強弱をつけて作業するように説明すると、生徒達は伐採する木の根元近くを握り地際から切断していました。次々と伐採されたマツの搬出に苦労したようでしたが、何とか予定区域の作業を終えました。

その後、林業体験の一つとして、竹林でのタケノコ採りに挑戦してみました。苦労して探し当てた地中のタケノコをスコップを使いやっこの思いで掘り起こしていました。生徒は山菜採りの難しさを感じながらも、自然の恵みとの出会いを各々楽しんでいました。

生徒のひとりには「森林を守る苦勞が分かりました。これからはもっと緑を大切にしていきたい」と初めての体験を振り返っていました。



クロマツの本数調整作業の様子

2015^も森林の恵みの環境祭

「守ろう地球、創ろう共生社会」

三八上北森林管理署

今年で8回目となる環境祭は、5月30日(土)に、当署と十和田市緑化推進委員会の主催、上北森林組合、上十三地区森林組合、三八地方森林組合、おいらせ知の会、青い森カービングクラブ、(社) ガールスカウト日本連盟青森県第10団と新たに東北町森林組合を共催に加え、上北地域県民局農林水産部、十和田市の後援、このほか多くの企業のご協力により、好天の中開催をする事が出来ました。

各出店コーナーでは、木工品等の販売、山菜募金、ペレットストーブの販売、まな板のカナナ掛け、シイタケのこま打ち体験、炭の販売等や間伐材利用の製品等の紹介をはじめ、緑化推進委員会の山菜鍋の無料配布や山遊びスタンプリー、さらには、三本木高等学校・附属中学校生徒1年生から3年生の樹書展、同吹奏楽部による「森と音楽の共演」と題した演奏会など参加団体による多種多様なコーナーを地域の方々に楽しんでいただきました。



三本木高校附属中学校吹奏楽部による演奏

この中で、毎年子供たちに人気の山遊びスタンプリーでは、木製カーリング、丸太切り、丸太釣り、積み木タワー、竹馬、ウッドアートの6つをチャレンジし、終わると各団体から提供された豪華景品を抽選で貰えることもあって、子供だけでなく老若男女が木にふれ合いながらチャレンジしていました。

また、山遊びスタンプリーの景品として各団体からの出品した品、当日の実演したチェンソーアート作品が格安で手に入るオークションを行い、その売上金と山菜及びシイタケのこま打ち体験等の販売金額、スタンプリーの参加募金等併せて

128,504円を6月1日に、十和田市緑化推進委員会へ「緑の募金」として寄付しました。

環境祭をとおし、森林の恵みにふれあい、森林・林業の重要性や地球温暖化防止に資する二酸化炭素の吸収源としての森林の役割について、身近に感じていただくとともに『緑の募金』活動に協力することで少しでも地域の役に立てればと思います。



ウッドアートチャレンジ

採材検討会を開催

岩手南部森林管理署遠野支署

6月22日(月)、遠野市みささき国有林において、本年度の素材生産販売事業を円滑に進めることを目的に関係林業事業体、森林組合連合会、行政機関、青森事務所、三陸中部署、岩手南部署、支署職員など約70名が

参加して遠野地区採材現地検討会を開催しました。

当日は、買入れ業者等からの木材市況及び需用の動向説明、東北森林管理局担当者から採材傾向の説明を受け、その後グループ毎にスギ、カラマツの採材、玉切り、矢高測定を行いその結果について意見交換を行いました。

検討会では、川上(生産者)から川下(需要者、署等(発注者))が共通認識の下に採材していくこと、いかに有効的に活用していくかが大切であるなどの参加者の声も聞かれ、関係者間の連絡・調整の重要性が確認でき、有意義な検討会となりました。



採材検討会の様子